

# 脳神経外科

## (スタッフ)

部長 : 永井 康之 (4月から)  
 : 中野 俊久 (3月まで)  
 部長 (がんセンター脳神経外科) : 永井 康之 (3月まで)  
 副部長 : 下高 一徳  
 主任医師 : 久光 慶紀 (10月から)

4月から9月までは常勤スタッフは2名となりましたが、その間、外来は大分大学医学部脳神経外科学教室から応援をいただきました。

## (診療実績)

2022年の外来患者延数は2,211名、入院患者数は166名でした。

入院患者数(表1)、手術件数(表2)とも昨年並みでしたが、コロナ禍の影響から脱しつつある印象です。

手術では、脳腫瘍、脳血管障害、神経血管圧迫症候群、慢性硬膜下血腫等で神経内視鏡や神経モニタリング装置を積極的に用い、安全な治療に努めました。また、小児脳神経外科専門医の下高副部長が奇形など小児に対する手術を、総合周産期母子医療センターや小児科とタイアップして行いました。正常圧水頭症に対するシャント手術や脳脊髄液漏出症に対する診療も引き続き行っています。

一次脳卒中センターとして(脳神経内科、神経放射線科とともに)の実績は、rt-PA 静注療法が10症例、機械的血栓回収療法が12症例でした。

## (今後の方向性)

大分県の基幹病院として専門性が重視される中、スタッフ一同でレベルアップを図り、脳神経外科全般に対応できる診療体制を維持して参ります。

また、ご紹介頂く地域の先生方と連絡を密にとり、ネットワークが軽い診療をモットーに、満足いただける医療を提供いたします。

当院では、日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会の認定施設であり、若手医師の教育/指導、学生実習にも力を入れていきます。

脳神経外科は救急対応が必要な症例が多く、救命救急センターと協力し、24時間を通して高度医療を提供していきます。特に、出血性/虚血性脳卒中の急性期診療に尽力していきます。

また、県内有数の総合周産期母子医療センターを持つ当院の特徴として、新生児・小児脳神経外科疾患が多く集まる環境にあります。引き続き、同センターと連携し、質の高い新生児・小児脳神経外科診療を行っていく所存です。(文責:永井康之)

表1 入院患者数

(単位:人)

	2020年	2021年	2022年
総入院数	178	169	166

表2 手術件数

(単位:件)

	2020年	2021年	2022年
総手術数	86	100	101
脳腫瘍	11	17	17
摘出術	6	11	7
生検術(開頭術)	1	1	0
生検術(定位手術)	2	3	3
経蝶形骨洞手術	2	2	3
その他	0	0	4
脳血管障害	15	14	14
破裂動脈瘤	5	7	3
未破裂動脈瘤	0	0	3
脳動静脈奇形	1	0	0
頸動脈内膜剥離術	0	0	0
バイパス手術	0	0	0
高血圧性脳内出血(開頭血腫除去術)	3	2	4
高血圧性脳内出血(定位手術)	3	1	0
その他	3	4	4
外傷	16	28	25
急性硬膜外血腫	0	2	1
急性硬膜下血腫	3	4	4
減圧開頭術	0	0	0
慢性硬膜下血腫	11	16	17
その他	2	6	3
奇形	2	4	5
頭蓋・脳	1	0	1
脊髄・脊椎	1	4	4
その他	0	1	0
水頭症	18	25	25
脳室シャント術	14	19	12
内視鏡手術	1	0	0
その他	3	6	13
脊椎・脊髄	0	0	0
腫瘍	0	0	0
動静脈奇形	0	0	0
変性疾患(変形性脊椎症)	0	0	0
変性疾患(椎間板ヘルニア)	0	0	0
変性疾患(後縦靭帯骨化症)	0	0	0
脊髄空洞症	0	0	0
その他	0	0	0
機能的手術	14	1	3
てんかん	0	0	0
不随意運動・頑痛症(刺激術)	0	0	0
不随意運動・頑痛症(破壊術)	0	0	0
脳神経減圧術	4	0	1
その他	10	5	2
血管内手術	7	7	2
動脈瘤塞栓術(破裂動脈瘤)	2	2	0
動脈瘤塞栓術(未破裂動脈瘤)	1	2	2
動静脈奇形(脳)	0	0	0
動静脈奇形(脊髄)	0	0	0
閉塞性脳血管障害	3	3	0
(上記のうちステント使用例)	1	3	0
その他	0	0	0
その他:上記の分類すべてに当てはまらない	3	4	10